

1 . 平成 19 年度事業報告書

事業の状況

1、写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成（決算 2,459,250 円）

写真に関する芸術・創作活動の奨励、人材の育成については本年度は以下のような事業を実施した。

(1) 写真教育

- 1)小学生を対象とした「写真学習プログラム」を平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月にかけて実施。全国の小学校 50 校、指導者 42 名、参加児童数 3,135 名。(05.1～3 月・12 校 415 名、05.4～06.3 月・57 校 1,954 名、06.4～07.3 月・53 校 3,074 名。3 年間の合計 172 校 8,578 名)富士フイルムイメージング(株)の協力で行った。
このプログラムに参加した児童の中から 300 名(34 校 300 枚)の作品を「“PHOTO IS” 10,000 人の写真展 2007」(主催：富士フイルム)で、「“PHOTO IS” 小学生の眼」として出展。7 月 6～8 日、東京・ミッドタウンホールを皮切りに、福岡、広島、大阪、名古屋、札幌、仙台の会場で 9 月まで展示され、全国の約 7 万 6 千人が鑑賞した。
- 2)高校写真部顧問を対象とした「デジタル写真講座」を、全国高等学校文化連盟写真専門部との共催で実施した。第 1 回目：8 月 3 日、大阪市立工芸高校。講師：田沼武能、松本徳彦、補助：平寿夫、柴田明蘭、田中祥介。大阪、滋賀の教師受講者 23 名。
第 2 回目：8 月 21 日、群馬県立前橋女子高校。講師：熊切圭介、齋藤康一、補助：高村達、内堀タケシ。教師受講者 16 名。ニコンカメラ販売(株)とエプソン販売(株)の協力で行った。

(2) 技術研究会

- 1)「ハッセル・デジタルバック研究会」を 4 月 27 日に JCII 会議室で行った。講師：渡辺正彦、波多野顕(シュリロ・トレーディング・カンパニー・リミテッド)、参加者 33 名。
- 2)「Eye-One によるカラーマネージメント・液晶モニタセミナー」を 10 月 22 日、JCII 会議室で行った。講師：渡辺正彦、波多野顕(シュリロ・トレーディング・カンパニー・リミテッド)、木田守都(株)ナナオ。参加者 50 名。
- 3)「写真家のための Adobe Photoshop CS3 セミナー(2)」を 11 月 12 日、JCII 会議室で行った。講師：栃谷宗央(アドビシステムズ株)、参加者 111 名。
- 4)JPS セミナー「印刷入稿のための画像データ作成法」を平成 20 年 2 月 6 日、池袋サンシャインシティ文化会館 7 階で行った。講師：石墨哲也、下田貴之(株)DNP フォトマーケティング)、山田和博(大日本印刷株)参加者 142 名。
- 5)著作権・企画合同セミナー「あなたのフィルム 大丈夫ですか？ フィルムの保管とビネガーシンドローム」を 3 月 26 日、JCII 会議室で行った。講師：吉田成(東京工芸大学教授)、松本徳彦(専務理事)、参加者 74 名。

2、写真の歴史、表現に関する展覧会の開催（決算 20,789,631 円）

写真の歴史、表現に関する展覧会の開催については本年度は以下のような事業を実施した。

(1)「2007JPS 展」後援：文化庁

一般公募 1,640 名(内 22 才以下 138 名)、応募点数 5,575 枚(内 22 才以下 339 枚)、
入賞入選者数 234 名 420 枚、22 才以下優秀作品 17 名 31 枚。「ヤングアイ」参加校 22 校。
会員テーマ シリーズ日本 第 1 回「日本の家族」出展数 122 名 122 作品。
総展示数 395 名、595 枚、総入場者数 9,016 名。
入場料(各展共通) 一般 700 円、学生 400 円、高校生以下無料。

- ・東京展 5 月 26 日(土)～6 月 10 日(日)、東京都写真美術館。入場者数 4,194 名。
後援：文化庁、共催：東京都写真美術館
表彰式・講演会・祝賀会：5 月 27 日(日)

講演会：「楽園～ハワイアン・スピリッツ」講師：三好和義(会員) 参加者約200名。

イベント：フォトクリニック(参加者32名) 5/29～6/1 講師・秦達夫、桃井一至、根本タケシ、藤井勝治。6/5～6/8 講師・藤城一朗、伏見行介、井村淳、清水哲朗。フォトセミナー(参加者53名)、6/2 賛助会員協力：エプソン販売(株) 6/3 賛助会員協力：キヤノン・マーケティング・ジャパン(株) 6/9 賛助会員協力：ニコンカメラ販売(株) 6/10 賛助会員協力：富士フイルムイメージング(株)

・関西展 6月26日(火)～7月1日(日)京都市美術館。入場者数3,567名。

後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会

表彰式・講演会・祝賀会：7月1日(日)京都市国際交流会館。

公募審査講評：熊切圭介、井上博道、田中祥介。

講演会：「何もなくて豊かな島・カオハガン」講師：熊切圭介(副会長) 参加者約200名。

・名古屋展 7月18日(水)～22日(日)愛知県美術館。入場者数1,255名。

後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

イベント：7月22日(日)

講演会：「フィルムとデジタル 新しい写真の可能性」講師：田中達也(会員) 参加者68名。

フォトクリニック：講師：川島英嗣、木村一成、近藤貴夫、田中達也、三浦誠、山口典利、与呉日出夫。

(2)「2007 新入会員展 - 私の仕事」

7月12日(木)～18日(水) アイテムフォトギャラリー「シリウス」

出展者51名、展示作品数102枚。オープニングパーティー：7月12日、参加者148名。

3、写真に関する著作権の啓蒙・普及活動(決算3,035,134円)

写真に関する著作権の啓蒙・普及活動については本年度は以下のような事業を実施した。

(1)研究会

1)「写真の流通と知的所有権の現状を考える」を7月13日、山形市・遊学館で行った。

講師：北村行夫(顧問弁護士)、山口勝廣(常務理事)、中野茂樹(会員) 参加者44名。

2)「写真表現と肖像権 撮る人、撮られる人そして公表は…」を9月1日、日本写真芸術専門学校で午後(学生対象)と夕方(一般)の2回開催した。講師：雪丸真吾(弁護士)、石田立雄

(学習研究社「CAPA」編集長)、林義勝(会員)。参加者1回目152名、2回目93名、総数245名。

3)「知っておきたい著作権の諸問題 - ネットワーク社会の写真著作権と契約について - 」を、10

月21日、京都市国際交流会館ホールで行った。講師：大井法子(弁護士)、三條場章(株博報堂 関西支社・クリエイティブディレクター)、垂井俊憲(会員)。参加者50名。

4)「写真著作権と肖像権 ネットワーク社会の写真著作権とスナップ写真撮影時の肖像権について」を、12月1日、広島・アステールプラザで行った。講師：北村行夫(顧問弁護士)、山口

勝廣(常務理事)、金山一広(会員) 参加者72名。

5)「フォトコンテスト応募要項における著作権」について二次継続調査をした。

6)「保護期間の満了した写真著作権の復活」について他団体と協議した。

7)「デジタルカメラのExifに著作者情報の掲載」について、日本写真著作権協会と合同でカメラ企業に要請した。

(2)「肖像権」に関する諸問題を解説したJPS編『スナップ写真のルールとマナー』を8月10日、

朝日新聞社から発行。定価756円(本体720円) 会員、関係団体に配布した。

(3)著作権よらず相談室を毎月第3水曜日に開催。相談数15件。

4、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰(決算3,490,010円)

写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰については本年度は以下のような事業を実施した。

(1)第33回「日本写真家協会賞」を写真史家の小沢健志氏に贈呈した。

贈呈式は12月12日にアルカディア市ヶ谷で行った。

- (2) 「2007JPS展」入賞・入選者234名を5月27日で東京都写真美術館ホールで表彰した。
- (3) 第3回「名取洋之助写真賞」は名取賞に今村拓馬「Kids-existence-」(カラー)を、奨励賞に山本剛士「被災者の心 ~新潟中越地震~」(モノクロ)を選び、授賞式を12月12日にアルカディア市ヶ谷で行った。
- (4) 第3回「名取洋之助写真賞受賞作品展」を東京、大阪で催した。
平成20年1月25日(金)~31日(木) 東京・富士フィルムフォトサロン、入場者4,776名。
平成20年2月22日(金)~28日(木) 大阪・富士フィルムフォトサロン、入場者2,707名。

5、写真に関する図書、機関誌等の編集刊行(決算23,295,842円)

写真に関する図書、機関誌等の編集刊行については本年度は以下のような出版物を発行した。

- (1) 『日本写真家協会会報』を発行。年3回(No.135~137)
- (2) 『JPS ニュース』を発行。年11回(No.441~451、総会資料)
- (3) 『2007JPS展作品集』を発行。(5月)
- (4) 『会員名簿2008~2009』を発行。(1月)

6、写真に関する国際交流(決算306,872円)

写真に関する国際交流については本年度は以下のような事業を実施した。

- (1) 国際交流セミナー、研究会の開催
 - 1) 「事業としての写真展の“秘訣”」を10月19日、JCII会議室で行った。講師：梅津禎三(元朝日新聞社写真部長)。参加者41名。
 - 2) 「写真展はビジネス アメリカの写真事情」を11月26日、JCII会議室で行った。講師：細江英公(監事・会員)。参加者53名。
 - 3) 「写真オークションの時代 - 日米欧の実情と運営システム - 」を平成20年2月26日、JCII会議室で行った。講師：井上和明(ギャラリー・パストレイズ主宰)、参加者30名。
 - 4) レクチャー&交流会第3回「ニュージーランド・ナイト」を4月18日、六本木・ニュージーランド・トラベルカフェで行った。参加者37名。第4回「ボツワナ観光カンファレンス」を6月12日、ボツワナ共和国大使館で行った。参加者39名。
 - 5) 表敬訪問：7月2日、中国写真家協会・李前光主席(会長・写真家)
8月27日、スペイン写真家協会会員・セザール・オールドネス・ベナケス(写真家)

7、その他目的を達成するために必要な事業(決算6,385,502円)

その他目的を達成するために必要な事業については本年度は以下のような事業を実施した。

- (1) 第1回フォトフォーラム「写真力ってなんだ 銀塩・デジタルを超えて熱く語る」を、9月30日有楽町・朝日ホールで開催(共催・朝日新聞社)。11:00~機材技術展 13:00~パネルディスカッション。パネリスト：篠山紀信、立松和平、中村征夫、田沼武能、司会・奥田明久。参加者497名。
- (2) ホームページ、インターネットを利用したサービス業務を実施。
- (3) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品の製作及び販売。
- (4) 相互祝賀会を12月12日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。参加者305名。

8、その他目的を達成するために必要な経費(決算23,888,517円)

9、文化庁委嘱事業「日本写真保存センター設立に関する調査研究」(決算8,288,361円)

文化庁委嘱事業「日本写真保存センター設立に関する調査研究」については本年度は以下のような事業を実施した。

物故写真家の写真原板の保管状況。収集基準、保存方法、権利処理、利活用に関する調査と海外のアーカイブスの現地調査等を行った。諮問会議 3 回、分科会 9 回。国内調査 29 件。施設調査：国立民族学博物館。

海外の収蔵施設の調査：9月17日～24日、フランス・パリ郊外、文化省所管の写真文化遺産保存局(Mediatheque Patrimoniale Archive Photographique)とアルベール・カーン博物館(Musée départemental Albert-Kahn)、パリ市写真保存修復アトリエ(Atelier de Restauration et de Conservation des Photographies de la Ville de Paris Hôtel Hénault de Cantobre)。ほか3カ所。

平成20年1月23日～31日、アメリカ・ワシントンDC、米国議会図書館(Library of Congress)と米国公文書館(National Archives and Records Administration)、ナショナル・ジオグラフィック(National Geographic Society)ほか3カ所。